札幌市立発寒中学校　学校だより

はちゃむ

第446号
2021, 3, 25

’９８きまりの精神
『自律』『尊重』『協力』

未来へ繋がる「一歩」を

校長　笹川　恒春

「あと一歩、もう一歩」。これは、この３年間ずっと言い続けてきた言葉です。もう限界かもしれないと思った時に「あと一歩だけ進んでみよう、もう一歩だけ踏み出してみよう…」と話をしてきました。

とある実験の話を紹介します。何もない壁の前に立った被検者に「これ以上ないぐらいの力で垂直飛びをする」という課題に取り組んでもらいました。被検者は思いっきり手を振って、これ以上ない力でジャンプして壁にタッチします。「もう一回やる？」と聞くと、たいがいの被検者は「これ以上は無理です…」と言います。ところが、壁をタッチしたところにマジックか何かで線を引いて「あの線を越えてみようか」と新たな課題を与えると、ほとんどの場合、マジックの線を越えてジャンプすることができるのだそうです。これは「目標の大切さ」を実感させる実験で、自分で決めた自分の限界点は目標さえ明確にあれば簡単に超えられるということを教えてくれています。

ですから、限界なんてやってみなくちゃわからないぞ・・・。あと一歩、もう一歩と進んでいけば、思ったよりも前に行けるんだぞ・・・。そんな思いを込めて話をしてきたつもりです。

しかし、一歩にはいろいろな「一歩」があるのです。自信満々で踏み出す一歩もあれば、真っ暗闇の中を恐る恐る踏み出す一歩もあります。乾いた道を颯爽と歩く一歩もあれば、ツルツル路面を滑って転ばないように慎重に踏み出す一歩もあります。足を怪我して松葉づえで踏み出す一歩もあれば、アスリートのようにタイムを競って走ったり歩いたりする一歩もあります。また、頭の中では踏み出しているのに、実際には足は踏み出せていない一歩もあるかもしれません。

ずいぶん前の話になりますが、私の友人に赤ちゃんが生まれました。赤ちゃんの名前は一歩（かずほ）ちゃんといいます。どうして友人夫婦がこの名前を付けたのかというと、実は生まれる前、お医者さんから「赤ちゃんは自分の足では歩けないかもしれない…」と言われていたそうです。そこで「一歩でいいから自分の足で歩かせてあげたいし、たとえ歩けなかったとしても、一歩でもいいから歩こうとする子に育ってほしい…」そんな願いを込めて「一歩（かずほ）」と名付けたのです。このような思い（願い）の一歩もあるかもしれません。

この１年、順調な歩みで進んできた人もいるでしょう。でも、なかなかうまく進めなかった人や、その場でじっとしていたり後ずさりしてしまった人もいるのではないでしょうか。でも、こんなにいっぱいの一歩があるのなら、踏み出したかどうかは大した問題ではないような気がしてきました。踏み出していなくたって立派な一歩もあるじゃないか・・・。前に進んだかどうかという結果ではなく、前に進もうと思ったか、諦めなかったか・・・そういうことの方が、未来につながる一歩じゃないか・・・。今はそんな気がしています。

発寒中学校は、「スマイル発中」というスローガンを掲げ、コロナ禍の中、多くの方の御協力と、何よりも子どもたちの頑張りで、この１年を歩み続けることができました。それを支えていただいた保護者の皆様、地域の皆様、本当にありがとうございました。私たちはこれからも、「あと一歩、もう一歩」の気持ちをもち、たとえ大きな困難に出会っても、未来につながる一歩を踏み出し続けてまいります。この１年本当にありがとうございました。そして、４月からも変わらぬ御支援をどうぞよろしくお願いいたします。